

花の窟神社 お綱掛け神事

『日本書紀』には、女神イザナミノミコトが火の神カグツチを生んで亡くなったという伝承の死後について次のように書かれています。

イザナミノミコトを紀伊国の有馬村に葬った。
土地の人がこの神をお祭りするには、花のときに花をもってお祭りし、鼓・笛・旗をもって歌舞してお祭りする (宇治谷孟著「全現代語訳 日本書紀」)



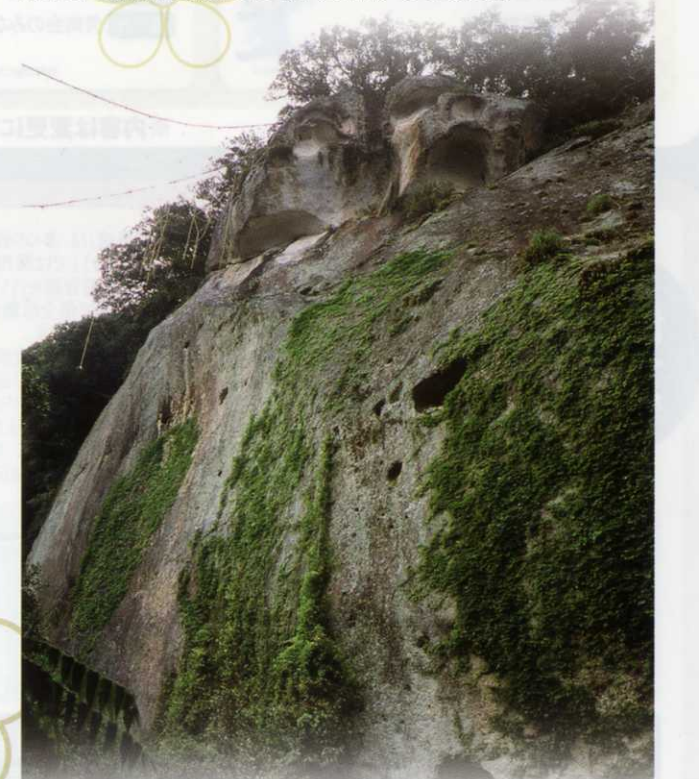
天保15年(1844) 藤川廣隆画(版木は熊野市郷土資料館蔵)

高さ45mの大岩の上から海岸に向かって張られた「お綱」を見上げてみるとどんな思いになるだろう。海の果てにある常世と現生、そして黄泉の国との境界だと感じてしまうのではないのでしょうか。この「お綱掛け神事」では、特別な田(明治初年までは奥有馬の山田の最上部にある御料田)で作られたモチ米の藁縄7本を束ねた長さ約170mの大綱に季節の花(2月2日はツバキ、10月2日はケイトウ)を結び付けた3つの縄幡および扇を吊るして、磐座の頂上(ウバメガシに結ばれる)から七里御浜の海岸へと大綱が引かれ、境内の南隅にある柱(かつてはマツの神木、現在はコンクリートの柱)の先端へと渡されます。3つの縄幡は三流の幡(みながれのはた)とよばれています。この3つの縄幡について『紀伊統風土記』には、朝廷から毎年奉獻されていた「錦の幡」が輸送途中で熊野川の増水で転覆したため代わりの「縄の幡」がつくられたとする記述がみえます。「お綱」を彷彿とさせる祭礼儀式がインドネシア・バリ島にあるという宗教学者久保田展人氏へのインタビュー記事があり少し引用します。

「これはお綱そのものではないかと直感した」。ペンジョールは、バリ・ヒンドゥー教の祭事「ガランガン」の期間中に家々の入口の左右に建てられる稲穂やヤシの葉を

飾り付け、空に向かって立てた長さ数十本の青竹は稲穂のようになり、先端が垂れ下がる。(略)久保田さんは、二つの祭事は発生時期も文化的な背景も異なり影響関係はないとみている。久保田さんは「熊野とバリには同じような地理的条件があるため、そこから同じような霊魂観がそれぞれ培われたものではないでしょうか」と考えている。著書『原日本の精神風土』に「祖霊、山神が山、岩、樹木等々を依代として降りてくると、地上に何らかの恵みをもたらすのだという祖霊観には明快な共通点が見られる」と記しているように、よく似た祖霊観や霊魂観が、約4千キロも海を隔てた熊野とバリに共通して育まれていることに着目している。「お綱」とペンジョールはその象徴なのだろう。(朝日新聞2014年2月16日(日)三重版「世界遺産10年熊野・黒瀬」)

『日本書紀』に伝承される花窟という聖地が、私たちにどういうメッセージを発信しているかを考えてみると生命の円環的な循環の営みに思いが至ります。2月の「お綱掛け」は、春の訪れも告げてくれます。



私は尾鷲で生まれ、5才とき父の転勤で離れ、戦時中に戻り尾鷲高女2年に転入学しました。その後当地で音楽教師として30才まで過ごしました。結婚して京都に移り住んで54年経ちました。その間、桐壺人形に魅せられ制作を続け、今では奈良県展に入賞するまでになりました。遠く離れていても多感な年代を過ごした紀州のことはいつも心に秘めて過しています。

熊野古道が世界遺産となつてから紙上などを通して読んでおりました。最近、思いがけないことにより、心の縁を繋いで頂きました。2年前、県立熊野古道センターの「東其石遺作展」に亡き母の所有品も出展され、私も初めて伺いました。直接みるセンターは海山に囲まれた素晴らしい文化の殿堂でした。次の年、NHK放映の「熊野古道」を見ながら、穴戸開氏と尾鷲高女時代の同級生のガイドで、八鬼山を京都に居ながら一緒に歩かせて頂きました。驚きと感激の一日でした。



「ひびき」壁張をひく天平女性像

嬉しい紀州との繋がりが、この便り

次は尾鷲市の
野田敦美さん



杉島季代子さん (京都府)

当初は聖護院一帯の広大な土地の鬱蒼とした森の中に、紀州から土、砂、木材なども運ばれて小さな祠のような建物や建てたばかりでした。その後何度か火災にあり、現在の社は天保6年(1835)下鴨神社の式年造営時に移築されたものだそうです。屋根の菊の御紋などは、天明8年(1788)の京都大火で御所も炎上し、光格天皇が3ヶ年仮御所とされた御縁からだと教わり、仰ぎ見つづりました。紀州の皆様、熊野古道を守り、後世に永くお伝えし、発展されんことをお祈りしています。

花尻 薫からの季節のたより No.37

タイキンギク キク科

タイキンギクは漢字で堆金菊と書き、又、ユキミギクとも言われています。堆金菊は黄色の花が盛り上がって咲くから名づけられたものです。ユキミギクは雪の降る冬に開花するので、冷たい冬でも枯れずに育ちます。植物の仲間をよく似た種類同志が属という分類で分けられ、タイキンギクはサワギク属の仲間に入ります。タイキンギクはもともと南方から北上した植物で、台湾・中国・フィリピンなどで繁殖し紀伊半島南部にたどり着いたものです。



タイキンギク

尾鷲市出身の植物研究家、故川口三好次さんが、昭和54年頃、丸木崎・三木崎、熊野市の二木島で晩秋から冬に咲く珍しい植物だと、出版物で紹介しています。その他、原色植物図鑑(保育社)昭和35年発行

では、本州(紀伊半島南部)四国(高知県)の海岸の崖に生える植物で、もともと南の方から分布してきた植物であると記しています。

冬でも暖かい熊野の海岸の向陽の崖は気温も高く、台湾やフィリピンと比較しても、そう違いがないと思われます。

タイキンギクは日本の絶滅の恐れのある野生植物で、環境省の調査では重要な植物であると記しています。タイキンギクの茎はつる状に伸びて長さは2m~5mあり、近くの木や物によりかかります。又、葉は三角形で長さは8cm~11cmです。タイキンギクの種は低気圧や台風の強風によって南から尾鷲市方面まで運ばれてきたものと思われる。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください!

12/31(木) 1/2(土)はお休みです。

お母ちゃんのランチバイキング
尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間: 11:00~14:00
料金: 中学生以上.....1,200円
小学生以上.....700円
4歳~小学生.....300円
4歳未満.....無料
60歳以上.....1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
入浴料: 一般.....600円
65歳以上.....500円
4歳~小学生.....300円
4歳未満.....無料

お風呂あがりは、カフェでゆったり
営業時間: 9:00~17:00 (カフェラストオーダー 16:30)

毎月26日は風呂の日 お子様は通常300円が100円でご入浴できます。



●お車で越しの方は...
尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルビオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)

●電車でお越しの方は...
JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅前」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車
■松阪駅
→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

熊野古道センターニュースレター

熊野古道センターからのてがみ
●2015年冬号●
●発行日:2015年12月10日(季刊)
●編集・発行:三重県立熊野古道センター (三重県指定管理 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
●編集担当:東
●連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
HP http://www.kumanokodocenter.com/
●開館時間:午前9時~午後5時
●入場料:無料
●休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター休館日のお知らせ
12/31(木)・1/1(金)の2日間は休館いたします。
新年は1/2(土)から開館!
みなさまのご来館をお待ちしております。
60000151210MH

